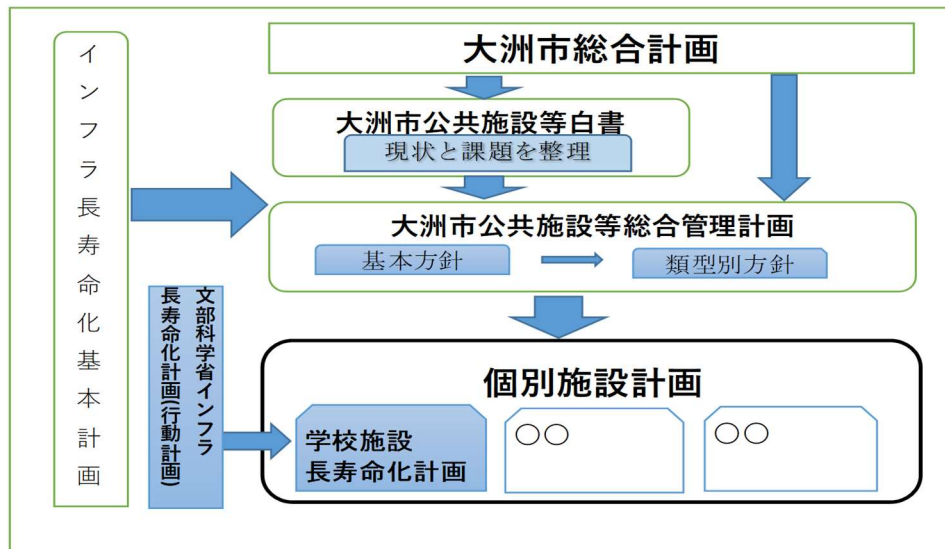


大洲市学校施設長寿命化計画 概要版

1 目的

従来の「改築中心・事後保全」から施設の使用年数を延長する「長寿命化中心・予防保全」の考え方へ整備手法の転換を図り、財政負担の軽減と平準化を図ることを目的とする。

2 計画関連図



3 計画期間

本計画の計画期間は、大洲市総合計画や大洲市公共施設等総合管理計画との整合性を考慮して令和7年度に一部改訂し、令和8年度から令和12年度までの5年間とする。

令和8年度(2025年度)～令和12年度(2030年度)

4 対象施設

本計画における対象施設は、令和7年4月現在、本市が保有している小学校及び中学校の学校施設（校舎・屋内運動場・プール）とする。

対象施設	学校数	棟数	延床面積(m ²)	プール数	備考
小学校	12	41	42,763	12	
中学校	8	29	30,831	6	
合計	20	70	73,594	18	

※1 倉庫等（200m²未満の建築物）は含まない

※2 プール数:平野中・肱川中は小学校兼用

5 学校施設の目指すべき姿

(1) 教育環境の整備

- ①学習能率の向上に資する快適な学習環境の整備
- ②児童生徒が愛着と誇りの持てる環境の整備
- ③教職員等の負担軽減などに配慮した環境の整備
- ④時代に応じたICT環境の整備

(2) 施設の安全性の確保

- ①地震、津波、水害等の災害に強い学校施設
- ②防災機能を備えた学校施設
- ③防犯機能を備えた安全で安心な学校施設

(3) 地域連携の充実

- ①伝統文化や行事の継承など地域と連携した学校施設
- ②災害時の避難所の機能を備えた学校施設
- ③学校、保護者、地域が協力して運営する学校施設

6 各施設の老朽化状況の実態

(1) 学校の校舎及び屋内運動場の状況

築40年以上経過している施設は、小学校施設16棟(39.0%)、中学校施設15棟(51.7%)である。

また、築50年以上経過している施設のうち、大洲南中学校校舎は過去に大規模改修を行っているものの20年以上経過している棟もあることから、市内学校施設において最初に長寿命化改修を実施している。(令和6年度～令和7年度に実施)

(2) 学校プールの状況

特に中学校は全6校、小学校は9校のプールが築40年以上経過しており、大規模改造及び改築(更新)時期を迎えている。

プール施設の老朽化に伴う更新は、水泳学習状況の変化、小中学校の立地状況、児童生徒数の状況やプールの利用状況を踏まえて、学校プールの共同利用や民間プールの利用等を実施し、事業費の縮減に努める。

7 学校施設の整備の基本的な3つの方針

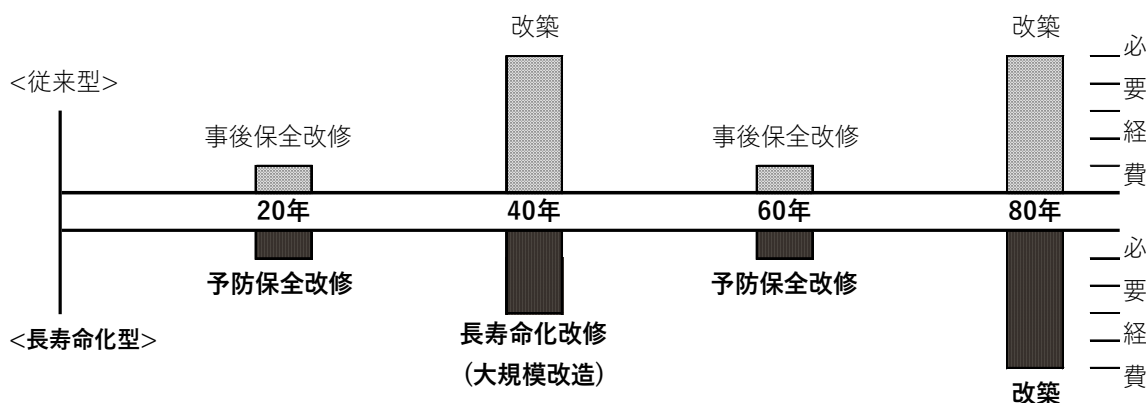
施設の長寿命化	現在の「耐用年数＝改築」という考え方から施設の状況に応じて「使用年数延長＝大規模改修」の視点により、改築時期の分散を図る。また、安全安心な教育環境を確保するため、「事後保全」から「予防保全」による改修を計画的に実施する。
必要な機能の整備	社会情勢や気象状況の変化により求められる良好な教育環境の確保、ICT教育環境の整備、バリアフリー化、教育システムの拡充及び防災機能の充実などに応じるための機能の整備を図る。
施設規模の適正化	現在は小学校の4校において複式学級の編制がされており、将来の更なる児童生徒数の減少を見込み、施設規模の適正化を図る。 学校プールにおいても、児童生徒数の推移、使用頻度等を考慮し、共同利用・民間委託等による適正な配置及び規模の検討を行う。

8 基本的な方針を踏まえた施設整備の考え方

(1) 長寿命化の考え方

- ① 建物の改築時期を原則築80年とする。
- ② 長寿命化改修時期を原則築40年とする。
- ③ 予防保全改修の標準的周期を原則築20年と築60年とする。

<長寿命化イメージ>

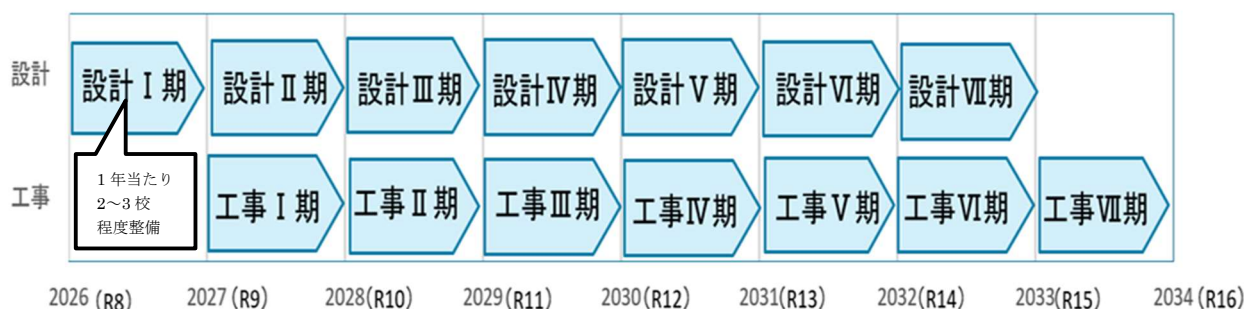


予防保全改修	長寿命化改修	予防保全改修
<ul style="list-style-type: none"> ・屋根防水張替え ・エコ機器更新 ・空調機器更新 ・必要箇所改修など 	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁塗装 ・屋根防水張替え ・トイレ改修 ・鉄筋等腐食対策 ・学習内容への対応 ・設備機器の更新など 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根防水張替え ・エコ機器更新 ・空調機器更新 ・必要箇所改修など

(2) 学習環境の向上及び防災機能の充実（体育館空調の整備）

学校施設は、子供たちの学習・生活の場であり、非常災害時には地域住民の避難所等としての役割を果たすことから、近年の気候変動の影響による平均気温の上昇や災害の激甚化頻発化を踏まえ、児童生徒の熱中症を予防し、快適に過ごせる学習環境を維持するとともに、避難所としての防災機能を強化するため市内の小中学校の体育館に空調設備の整備を実施する。

整備期間は工事費用の平準化を図るため、8年間（設計7期・工事7期）とし、空調方式や断熱工法等の整備手法については専門業者の意見を参考としながら効率的かつ効果的な整備となるよう検討する。



(3) 学校プールの適正規模について

学校プールについては、令和6年度に「水泳授業委託事業」の実証実験を実施し、アンケート、ヒアリングにより維持管理の費用や教職員の業務負担を軽減できることが確認されたため、令和7年度から大洲小学校（1～2年生）、肱東中学校及び大洲東中学校にて民間委託を導入している。

また、複数校間における学校プールの共同利用については、既に平野小中学校及び肱川小中学校で実施しており、生徒の学校間の移動に支障がなく、水泳授業の時間数を確保できると見込まれる新谷小中学校及び長浜小中学校についても、令和8年度から実施を検討する。なお、安全管理上、小学校のプールを中学生が利用する方式とする。

今後においても「水泳学習や教育現場の状況」「プールの利用状況や児童生徒数の推移」「プール施設の老朽化」などを鑑み、時代の流れに合った施設の配置や規模の適正化となるよう努める。また、民間委託や共同利用の実施により使用しなくなった学校プールは、改修を行わないこととし、コストの縮減を図る。

【現状】 20学校 18プール  【民間委託・共同利用後】 20学校 14プール

使用を取り止めるプール（肱東中・新谷中・大洲東中・長浜中）

9 長寿命化計画と効果

《長寿命化計画の推進方法》

改修等の時期(目安)	築80年・・・改築 築40年・・・長寿命化改修 築20年、60年・・・予防保全改修
------------	---



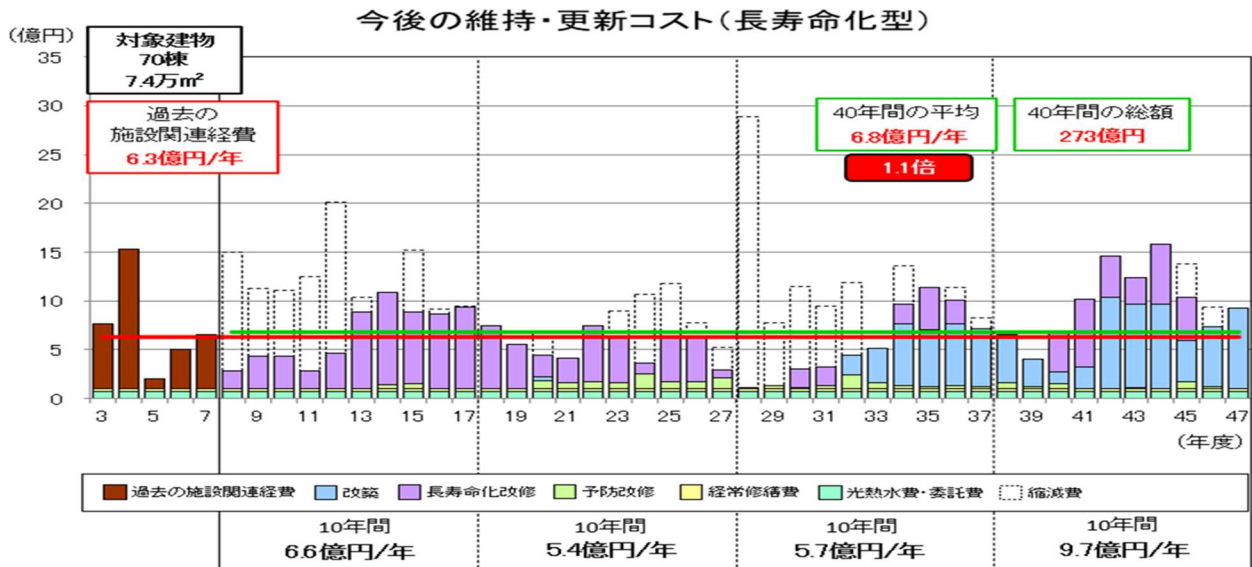
事前調査の実施	建築士等の専門家による調査 改修等の整備項目に沿って老朽度等の調査を行い、整備方法の検討や概算経費の試算を行う。
---------	---



改修内容や時期の設定	改修の必要性の検討(事前調査の結果による) 優先順位の検討(複数校ある場合) 財源の確保の検討(交付金等の申請)
------------	--

《小中学校校舎・屋内運動場の長寿命化計画における試算結果》

【基本】○築 20・60 年：予防保全改修 ○築 40 年：長寿命化改修 ○築 80 年：改築】



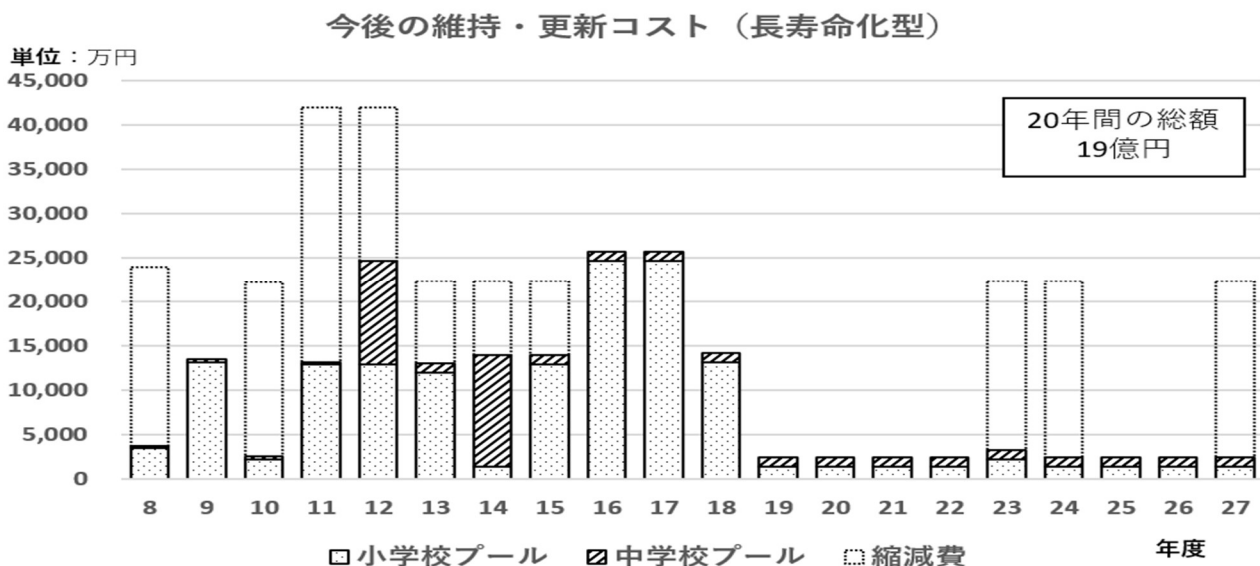
◆長寿命化計画における効果（校舎・屋内運動場分）

(単位：百万円)

年度	R8～R17	R18～R27	R28～R37	R38～R47	計
従来型の試算	11,980	6,950	11,820	5,140	35,890
長寿命化型の試算	6,570	5,400	5,630	9,710	27,310
長寿命化計画の効果	5,410	1,550	6,190	-4,570	8,580

《小中学校プールの長寿命化計画における試算結果》

【基本】○築 20・40・60 年：プール槽改修 ○築 40 年：プール長寿命化改修・ポンプ改修
○築 80 年：プール改築 ○民間委託、共同利用によるプール廃止



◆長寿命化計画における効果（学校プール分）

(単位：百万円)

年度	R8～R12	R13～R17	R18～R22	R23～R27	計
従来型の試算	1,328	1,159	114	714	3,315
長寿命化型の試算	577	924	240	131	1,872
長寿命化計画の効果	751	235	-126	583	1,443